



あいさつは自分から

朝から並木坂に立っていて久しぶりに汗が吹き出しました。先週までの雨模様とは異なり、日差しが強くむしむししています。心なしか通勤、通学の人たちもちょっとぐったりしてきつそうです。

そんな中、今朝はとてもうれしいことがありました。それは、6年生が気持ちのよいあいさつをしてくれたことです。

あいさつに関しては、いつも私の方から声をかけるように心がけています。これは大人に対しても子どもに対しても同じです。登校してくる子どもたちは、その声にこたえて明るくあいさつを返してくれます。

今朝の並木坂は、地域の方が交通指導をしてくださっていましたので、いつもとは反対側に立っていました。すると、私の後方から6年生の男の子が、「おはようございます」と明るく声をかけてくれたのです。

普段と変わらない、何気ないことのように思えます。しかし、自分を見ていない、自分に気づいていない相手にあいさつすることは、小学生にとって結構ハードルが高いことなのです。

廊下や道ですれ違う時、子どもたちはよくあいさつをします。互いの存在に気づいているし見ているからです。しかし、後ろ向きで作業をしている時など、黙って通り過ぎていくことがよくあります。存在に気づかないのかもしれませんが、また、気づいていても相手が見ていないからあいさつしなくてもいいと思っているのかもしれませんが。

自分から進んで声をかける、自分に気づいていない人にもあいさつする。そんな素晴らしいあいさつの輪が広がっていくと嬉しいですね。

さらに、笑顔のあいさつが交わされるようになると素敵だなと思います。毎朝、並木坂で通勤、通学する人にあいさつをしますが、笑顔であいさつを返される人は本当に少ないです。不思議なもので外国の方はよく笑顔であいさつされます。毎朝、5、6名通っていかれますが、いつも笑顔のあいさつです。

住友生命の調査(2018.1)によると、日本人の笑顔の時間は、1日118.4分。女性161.1分に対して、男性は約半分の75.6分です。日本人は、どうも笑顔が少ないのかもしれませんがね。

保護者の皆さんはどうでしょうか。笑顔であいさつされていますか？